『夢！きらリンク愛知国体』アイスホッケー競技会オフィシャルスタッフ等

育成事業における感染拡大防止ガイドライン

令和２年７月２日

１　実施基準

　　オフィシャルスタッフ育成事業の実施可否の基準については、公益財団法人日本アイスホッケー連盟が作成する「新型コロナウイルスの感染防止に関する大会等の実施基準」による。

２　基本的対策

1. 競技役員、参加選手、同伴者、観戦者等に対し、咳エチケット、マスクの常時着用並びに手洗い・アルコール消毒など手指衛生を周知徹底する。
2. 会場の出入口、受付窓口及び大会本部にアルコール消毒剤や非接触型体温測定器を備える。
3. 発熱等の症状がある競技役員、参加選手、同伴者、観戦者等に対し、会場への入場を見合わせるように周知する。
4. 新型コロナ対応を含めた緊急時対応計画を準備する。
5. 個人情報の取扱いに十分注意しながら、参加当日に競技役員、参加選手、同伴者、観戦者等より提出を求めた情報について、保存期間（１か月）を定めて保存する。

３　大会運営

1. 開会式や監督会議など、多人数を一定時間、同じ空間に拘束する催しは行わず、印刷物の配布や電子メールなどの配信等によって省略する。
2. レフェリー等による対戦チームのユニフォーム合わせは、事前に写真を送ることなどにより省略する。
3. 印刷物等配布物を配布する担当者は、特に手洗いやアルコール消毒に努める。
4. 大会本部に充てている部屋は、可能な限り、消毒と換気に努める。
5. 怪我等の応急措置に備え、救護室または大会本部に使い捨て手袋やマスクを常備する。
6. 大会の一環としての集客イベントや、おもてなしとしての飲食物の提供は行わない。
7. 関連行事としての懇親会や慰労会は開催しない。
8. 関係者以外の観戦は、特に高齢者の観戦を控えてもらう。
9. 関係者であっても、近接しての観戦や声を出しての応援は控えてもらう。

(10)受付窓口には、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで飛沫を防止する。

(11)競技役員、参加選手、同伴者、観戦者等から別添「健康チェックリスト」の提出を求める。

４　競技運営

1. 試合終了後の握手はしない。素手でのハイタッチもしない。
2. リンク上やプレイヤーズベンチ内などでは、唾を吐かない。
3. プレイヤーズベンチでは、可能な限り接近して座らない。
4. スクイズボトルやタオル等の使いまわしは絶対にしない。
5. チームスタッフは常時マスクを着用する。
6. レフェリーやレインズマンは手袋を着用し、ピリオド終了ごとに手洗い・うがいを行う。
7. オフィシャルボックスやペナルティボックスの競技役員は、常時マスクを着用するとともに、換気やドアノブ・電光掲示操作盤などの消毒に努める。
8. 選手控室に充てている部屋は、可能な限り、消毒と換気に努める。
9. 更衣室など人の密集する部屋の利用は、可能な限り短時間に抑えるとともに、時間差を設けて使用するなど過密にならないように留意する。

(10)自動車利用者は、可能な限り着替えは自宅で行い、選手控室（更衣室）では行わない。

(11)試合後には、ヘルメットやグラブ、スティック、スケート靴など他人の飛沫がつきやすい用具の消毒、ジャージやストッキングなどの洗濯を行うように注意喚起する。

別添

　健康チェックリスト

令和２年　月　　日

１　当日の体温　　（　　　　　.　　℃）

２　過去２週間における以下の事項の有無

|  |  |
| --- | --- |
| 平熱を超える発熱（おおむね37.0℃以上） | 【　有　・　無　】 |
| 咳、のどの痛みなど風邪の症状 | 【　有　・　無　】 |
| だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難） | 【　有　・　無　】 |
| 嗅覚や味覚の異常 | 【　有　・　無　】 |
| 体が重く感じる、疲れやすい等 | 【　有　・　無　】 |
| 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触 | 【　有　・　無　】 |
| 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方 | 【　有　・　無　】 |
| 政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触 | 【　有　・　無　】 |

３　受付時の体温　（　　　.　℃）

４　大会後の報告

本日より２週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者（愛知県アイスホッケー連盟又は愛知県実行委員会）に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告します。

【　承諾する　・　承諾しない】

氏名：　　　　　　　　　　　　　所属(チーム名)：

年齢：　　　　　　　　　　　　　住所：

電話番号：　　　　　　　　　　　　　メール：